

# SAGA-LS Web magazine 29

発行：九州シンクロトン光研究センター

May 2021



## Contents

- ・経営計画（2021～2023）
- ・User Interview（山口大学 野崎先生）
- ・新スタッフ紹介
- ・SAGA-LS Report
- ・施設見学
- ・産業利用コーディネート事業/包括利用制度
- ・2020年度利用実績
- ・貸研究室のお知らせ
- ・読者プレゼント
- ・編集後記 田代売薬/くすり博物館

中富記念くすり博物館（鳥栖市）

# 経 営 計 画 2021～2023

～学術、産業の発展と地域の活性化へ～

所長 妹尾 与志木



本マガジンにしてはやや硬い話題ですが、当センターの運営の骨になる部分ですので、今回は少し触れさせていただきます。

当センターの施設名称は「佐賀県立九州シンクロトン光研究センター」で、名前の通り佐賀県が運営する施設ですが、運営に携わっている私たちは県の職員ではなく、「公益財団法人佐賀県産業振興機構」（2021年3月までは「公益財団法人佐賀県地域産業支援センター」）の職員です。財団が県の施設である当センターを運営して目的とする公共的な事業を行っており、その経営の方針を3年ごとに「経営計画書」として策定しています。2021年度～2023年度の3カ年分の経営計画書についてご紹介いたします。

当センターは何のために設立されているのか、計画書の冒頭はその説明に充てています。当センターの設立が検討されていた1999年、整備検討委員会において施設設立の狙いとして以下の5項目が制定されました。

- (1) 地域産業の高度化と新規産業の創出
- (2) 優秀な頭脳の集積
- (3) 多様な産学官連携拠点の形成
- (4) 先端科学技術を担う人材の育成
- (5) 科学技術への理解の促進

研究機関としての様々な機能を発揮し（(2)～(5)項）、その成果を佐賀県の産業の高度化や新産業の創出に繋げる（(1)項）、と要約することができます。

当センターの研究機関としての機能とは、「シンクロトン光」を発生させそれを材料の解析などに利用して学術や産業に関する様々な問題解決を図ること、です（「シンクロトン光」が何者かはここでは触れません。ご興味があれば一般公開などの当センターの行事に参加してみてください）。当然ですが、佐賀県の産業が抱える問題のすべてが「シンクロトン光」と繋がる訳ではなく、各企業でお持ちの問題は多岐に渡ります。それらへの対処の意味もあり、計画書では、他の大学、公設試等の研究機関との連携強化を非常に重要な方針として打ち出しています。

当センターの活動は、まずできる限り多くの皆様に課題解決のために当センターをご利用いただくことが出発点になります。その結果を学術や産業の発展へ、ひいては地域の活性化へと繋ぐのが当センターの活動です。

シンクロトロン光の利用を目的とした実験施設が世界で初めて創設されたのは1975年で（場所は東京大学田無地区です）、現在では広い研究領域で使われるようになってきてはいますが、まだ「近寄りがたい」との印象を持っておられる方々も多くいらっしゃいます。そこで利用をお考えの皆様に対しての利用促進のために以下のような活動を行うことを謳っています。

- センターの利用に関してどなたでも申し込める「利用相談」の実施
- 利用に際しての事前準備等に関する手寧なサービスの実行
- 「サマースクール」の開設（初心者の方にもシンクロトロン光を用いた測定  
の体験が可能）
- 年一回の施設の「研究成果報告会」による研究成果のアピール
- 利用者の方々およびセンター研究員の作成する学術論文などの積極的なアピール

なお、2021年度の研究成果報告会は8月23日に熊本大学で開催する予定で、九州域に対する当センターのアピールを意識しています。

普段、研究とはあまり縁のない皆様に対しての働きかけも忘れてはなりません。科学技術の理解者、支援者を一人でも多くすること、また佐賀県という地方自治体がそのような活動を行っていることをアピールすることが大変重要です。以下のような活動を行います。

- 年一回「一般公開」を行い、皆様に施設を直接ご覧いただける機会を設ける
- 東京や関西で開かれる展示会へ参加し、施設の知名度アップを図る
- 施設見学のお申し込みを随時受け付ける（お一人様でもお申し込み可能）  
2021年度の一般公開は9月25日を予定しています。

前述のようなことを下地として、県内の産業に対してはさらに踏み込んだ活動を行います。当センターには「産業利用コーディネーター」という役職があり、文字通りシンクロトロン光を中心とした科学と県内の産業との橋渡し役を務めています。県内の企業や公設試を積極的に訪問し、諸問題を幅広くお伺いしてその解決のお手伝いをします。工業技術センターなど他の研究機関に繋ぐことで解決が図れることも多くありますが、課題にうまく適合できればシンクロトロン光はその解決にとって極めて有力な手段になります。当センターでは県内の企業の皆様に限り「包括利用」制度という特別な利用枠を用意しています。通常、当センターの利用は利用者の方々が自ら実験し解析することが原則ですが、同制度に限っては当センターの研究員がそれらを行うことも可能にしています。また通常の利用制度は1日が利用の最小単位ですが同制度は2時間単位で利用でき、できる限り利用に係るハードルを低くするように工夫しています。そのほか、共同研究の枠を利用して特定の研究領域に関する課題設定を当センターで行い、他の研究機関と共同で研究の伸長を図るような試みも計画しています。現時点で考えている研究テーマは「神埼そうめん」と「パワーデバイス」です。

計画書では以下のような数値目標を掲げています。

(a) 県有ビームライン利用時間 3300時間/年

(b) 県内利用件数 30件以上/年

(a)は当センターの定常的な活動の指標としての目標値です。「県有ビームライン」とは当センターが運営して利用者の方々に利用していただく実験場所で、数値は全ビームラインの年間の合計利用時間を表しています。(b)は言うまでもなく県内の産業を支える活動を表すひとつの指標です。

これらの活動を支える土台は当センターの研究者自身であり、また利用している設備です。センターの機能を確保する意味で、次の世代を担う研究者の新たな採用、老朽設備の改修、設備面での新たな機能の実現などについて長期的な計画を立てておく必要があります。計画書ではその必要性にも触れています。

学術研究が産業を支援する構図はすごく当然のことに見えますが、それぞれの領域が独自に発展を遂げてきた一面もあり、両者が歩み寄ることがむづかしい場合も多々あります。しかしながら、「研究」を行っているからこそ可能な支援が必ずあります。その支援を実現させるには両者の間に横たわる障壁を取り去る努力が必要です。当センターは、他の研究機関との連携も通して、産業の隅々にまで行きわたる「研究」からの支援を実現させていきたいと考えています。また佐賀県という地方自治体が行っていることを全国に発信していきたいと考えています。

今後とも当センターをどうかよろしくご願ひ申し上げます。



# User Interview

## 【プロフィール】

- 1964年 山口県生まれ
- 1986年 山口大学理学部物理学科卒業
- 1988年 山口大学大学院理学研究科修士課程修了
- 1988年 セントラル硝子株式会社入社
- 1993年 山口大学理学部助手
- 2001年 山口大学理学部助教授
- 2006年 山口大学大学院理工学研究科助教授  
(組織改編による)
- 2007年 山口大学大学院理工学研究科准教授  
(職位名称変更による)
- 2010年 同 教授
- 2016年 山口大学大学院創成科学研究科教授  
(組織改編による)
- 2018年 山口大学理学部長 (創成科学研究科副研究科長)  
現在に至る



山口大学大学院 創成科学研究科 (理学部)  
教授 博士 (学術)

**野崎 浩二 先生**

## 1 日頃、どのような研究をされていますか。

鎖状分子の秩序構造形成に関する研究を行っています。鎖状分子には、ワックスの主成分であり十から数十個の炭素原子が連なった炭化水素鎖分子 (鎖状低分子) や、ポリエチレン等の数百から数万個といった多くの原子が連なった長くて巨大な分子 (鎖状高分子) があります。鎖状低分子の多くは低温では結晶状態になります。一方で鎖状高分子にも低温で結晶化する結晶性高分子があります。鎖状分子結晶では「鎖状であり、比較的あるいは非常に長い」という特性を起源とする興味深い構造形成が見られます。このような構造形成をX線散乱法 (X線回折、X線小角散乱、etc)、熱分析法、光学顕微鏡法、原子間力顕微鏡法等の実験手法によって調べています。



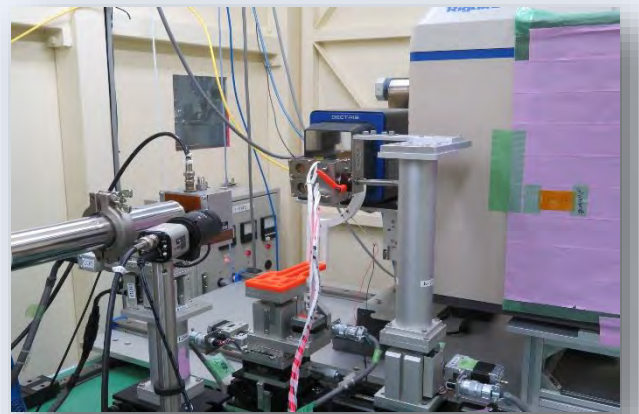
「薄膜用の試料台を搭載したX線回折装置」

# User Interview

## 2 当研究センターご利用のきっかけを教えてください。

2010年に初めて利用させていただきました。学生の頃の隣の研究室に所属していた友人が研究センターの研究員に着任し、センターの実験設備や利用方法について紹介してくれたのがきっかけです。当時進めていた研究にはその場観測が有力な手法になりそうだったので、まずはトライアルユースで測定が可能であることを確認後、一般利用で実験を行いました。

その後、センターに薄膜X線回折の設備が導入されたのを機に、有機分子薄膜の分子配列のその場観測に使わせていただきました。ラボレベルのX線回折装置では困難な有機分子薄膜の相転移進行のその場観測に成功しました。それ以降、継続的に利用させていただいています。



「BL11でのX線広角回折その場観測のレイアウト  
(持ち込みの温度ジャンプステージ設置)」

## 3 シンクロトロン放射光を使われた感想はいかがですか。測定手法など含めて教えてください。

大きく2つのメリットを感じています。まず、強い光源を利用して短時間で進行する現象を時分割その場観測できることが、確実に私たちの研究の幅を広げているという実感があります。

もう1つのメリットは大学特有の教育面でのメリットです。最先端の実験設備を用いて行う特殊な測定手法を導入することにより、学生の研究に対する興味がより強くなります。さらに、わずか10時間程度の実験時間を有効に活用するためには精密な実験計画の作成、周到な準備実験、そして研究室内のスタッフやセンターのスタッフの方との綿密な打ち合わせが必要であり、学生自身が緊張感をもってそれらを進めることで業務遂行能力の育成の役に立ちます。山口から近いので使いやすいのもメリットです。

# User Interview

## 4 貴機関におけるシンクロトロン放射光利用の位置付けを教えてください。

シンクロトロン放射光実験は、日常のラボでの実験結果を考察する中で、特に短時間のその場観測をいう手法を使えば必ず明らかになるといった課題が生じた際に行う「勝負実験」という位置付けです。そのような実験課題を思いついたときには私も学生も期待でわくわくします。実際に利用日に近づき、計画や準備が本格化すると、期待感から緊張感に変化します。学生は特にその変化が顕著です。

私自身、今現在は学部長業務で自分自身が研究を行う時間がかなり制限されます。そのような状況でシンクロトロン放射光実験は私にとっては唯一の実験（研究）の機会であると言っても過言ではなく、砂漠のオアシスのような位置付けでもあります。



「2020年度の研究室（高分子物理学）のメンバー」

## 5 当研究センターへのご要望、今後の抱負などお聞かせください。

2020年度は先端創生利用（長期タイプ）に採択いただきました。この利用によって時分割その場観測のような実験を年間で数日間計画的に実施することができました。他の放射光施設ではなかなかできないことです。今後も可能な限り、このような形式の利用を維持していただきたいと思います。

私たちが今、興味をもって進めている研究は、結晶性高分子の結晶化完了後に起こるさまざまな再組織化の実態を明らかにし、再組織化がその後の相転移現象に与える影響を調べることです。熱処理中のその場観測が必須の研究です。シンクロトロン放射光を有効に活用してインパクトのある研究成果を創出し、その場観測の有効性とその威力を世の中に示していきたいと思っています。

# User Interview

## 6 研究を進めるうえでのスタンスやポリシーなど、一言お願いします。

民間企業との共同研究も進める中、根本を解き明かすことを研究の基本に据えております。高校生のかぎに出会った物理学に興味をもち、大学で物理学を勉強し、今も物理学を教えていることもあり、常に物理学の切り口で物事を捉えることを重視したいからです。基礎研究の成果は、その応用に関して無限の可能性をもっているはずで、応用分野や製造現場等のさまざまなところで役に立つ基礎研究の成果を出したいと思っています。

## 7 尊敬する人物、趣味やマイブームなどありましたら教えてください。

私はいろいろな方々と共同で研究を進めるのが好きで、他の方々は私にはない能力をお持ちなので、みなさん尊敬しています。

この歳になると心身の健康維持には気を使います。体を動かすこと、そしていろいろなことを考えて脳を動かすことが心身の健康につながると思います。2.5 kmの距離の徒歩通勤と休日の5 km程度の軽いジョギングで、体を動かす機会と考える時間を確保しています。センターのある弥生が丘周辺は散歩やジョギングによい場所です。2020年度最後の実験の日（3月末）の朝、センター付近をジョギングしてみました。桜の花でいっぱいでした。

もう一つ、日本酒をいただくことが好きです。幸い山口県は多くの酒蔵が先進的な日本酒を造っており、美味しい地酒がたくさんあります。特に若手の酒蔵主がよいお酒を出しているので応援しています。佐賀県の美味しい日本酒も発掘してみたいと思いますので、是非ご紹介ください。



「満開の桜並木（弥生が丘）」



「お気に入りの山口の地酒のラインナップ」

お忙しい中、ご寄稿いただきありがとうございました。



# New Staff Interview



業務内容や今後の抱負などを教えてください。

20年余り勤務した大型放射光施設 (SPRING-8) を定年退職し、この4月よりビームライングループ長として九州シンクロトロン光研究センターにお世話になっています。

まだ日が浅いのですが他施設にはない当研究センターの魅力的な特徴が少しずつ見えてきました。これらの優れた技術、職員、利用制度をより多くの方に知っていただき、センターを活用してもらえるよう情報発信をするとともに利用者に信頼される職員のひとりになるべく勉強を続けたいと考えています。

BLグループ グループ長  
主席研究員  
廣沢 一郎



趣味や休日の過ごし方などを教えてください。

ジョギングを若いころから継続してやっています。30代前半まではサブスリーランナーでした。25年前にレース出場を止めてからは、専ら体力維持のためにマイペースで走っています。研究センターの西側の木々に囲まれた坂道は長野県の実家周辺と雰囲気似ているためか気持ちよく走ることができます。しばらくは弥生が丘周辺でマイコースをみつけるべくコース探索を楽しみたいと思います。



業務内容や今後の抱負などを教えてください。

利用企画課 課長  
富永 剛

利用企画課長としてこの4月に着任しました(県庁からの出向です)。利用企画という名称の組織に属するということは、「当センターをいかに利用していただくか」ということを日々追求していくことが業務として求められているはずで。

16年目を迎える当センターは、「地域産業の高度化」「新規産業の創出」「優秀な頭脳の集積」等を目的として設立されています。このような素晴らしい施設が佐賀県に、しかも県立の施設として存在していることの意義を再認識したうえで、県内企業を始めとした利用者の皆様にとって身近なパートナーとしての存在価値をさらに高めていきたいと考えています。



趣味や休日の過ごし方などを教えてください。

SAGATOCO(佐賀県公式ウォーキングアプリ)を利用してからは、歩くのが趣味になりました。利用開始当時は首都圏事務所で勤務していましたが、一昨年の大晦日には、朝の7時に新宿駅を出発して山手線を一周しました。夕方6時までの11時間、約6万歩の旅でした。いい思い出です。

どうぞよろしくお願いたします。





## 2020年12月7日(月) 第2回 施設見学会



【実験ホール内の見学】



【装置の説明】

地域産業や一般企業様にも気軽に当施設をご活用していただくことを目的として、年に数回、施設見学会を行っています。施設概要の説明や利用事例の紹介、実際に実験ホール内を見学していただきます。参加された方は、実験装置を目の前にし、熱心に説明に耳を傾けられていました。「専門的な知識がないので利用するのはちょっと…」などの不安もあるかと思いますが、当施設には産業利用コーディネーターも在籍していますので、お気軽にご相談ください。

## 2020年12月9日(水)～11日(金) nanotech2021



【九州シンクロトン光研究センターのブース】



【職員からの説明の様子】

2020年12月9日～11日の3日間、東京ビッグサイトにて開催された「nanotech 2021」に出展しました。コロナ禍での開催ということで、例年よりも少ない参加人数ではありましたが、今年は、22,704名(オンライン参加を含む)の参加があり、研究センターブースでは、利用されている企業や大学、公設試の利用事例を、ポスターにて紹介しました。また、来訪いただいた方々には、職員より、シンクロトン光の利用の可能性について説明いたしました。これを機に、当センターの今後の利用に繋がることを期待しています。



# Saga-Ls Report

## 2021年3月22日(月) 神埼そうめん研究成果報告会



共同研究  
西九州大学・九州シンクロトロン光研究センター  
～味の“証明”～  
放射光利用等による食品分析(神埼そうめん)に関する研究

### 研究成果報告会

1. 日時 2021年3月22日(月) 14:00~16:00  
2. 場所 九州シンクロトロン光研究センター(2階) セミナー室  
佐賀県鳥栖市弥生が丘八丁目7番地  
3. 内容 (1) 研究成果報告 (2) 意見交換 (3) その他

**シンクロトロン光による地域産業の高度化**  
神埼そうめんの美味しさを科学的に証明して、その特徴により他産地との差別化を図り、究極のそうめんブランドの確立を目指します!!



佐賀の発明王!



まさき てるさと  
真崎 照郷

【現状と課題】

- ・「神埼そうめん」は、約380年の歴史を有する佐賀県の伝統的な地場産業であり、佐賀平野は原料となる良質な小麦の産地である。さらに観光資源としての貢献度も高いことから、裾野が広い産業として「神埼そうめん」を研究対象とした。
- ・明治期の真崎照郷(まさきてるさと)の発明による機械製麺が「神埼そうめん」の特徴であるが、他産地(手延べ製麺)との相違点や優位性を効果的にアピールすることが重要である。
- ・「神埼そうめん」の商品価値を高め、ブランド確立(差別化)をすることができる科学的な根拠を証明する必要がある。

神埼そうめんの美味しさを科学的に解明して、その特徴により他産地との差別化を図り、究極のそうめんブランドの確立を目指して、西九州大学と共同研究を実施しています。

その研究成果の報告会を開催したところ、関係者44名もの参加があり、生産者様からも貴重なご意見をたくさんいただき、今後の研究方針等について意見交換をすることができました。

神埼そうめんのブランド確立に向けた産学官連携による施策展開にご期待ください。

## 2021年4月19日(月)~21日(水) 放射線業務従事者教育訓練



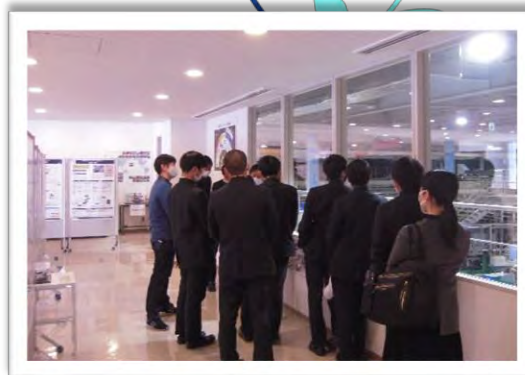
4月19日~21日の3日間で、放射線業務従事者教育訓練講習会を開催しましたが、今回の講習会は、県内公設試職員等を対象としたもので、新規、再教育合わせて34名参加しました。コロナ禍の中、感染防止対策を施して、受講人数を減らし、間隔を空けての着席、マスクの着用等、感染防止対策を行い開催することができました。

# 施設見学

2020/12/15

福岡県立福岡工業高等学校  
電子工学科2年

福岡市よりお越しいただきました。電子工学科の皆さんでしたので、光（電磁波）の説明は違和感がなかったようですが、材料解析の話はむずかしかったかもしれません。ここで働くにはどんな勉強をすれば？と言ったご質問もいただきました。後日全員分の感想メモをお送りいただき大変感謝しております。今後も当所を学校研修の場としてご利用いただければ幸いです。



2021/4/15

大阪市立東高等学校 理数科3年

修学旅行として、遠路大阪よりお越しいただきました。熱心に説明を聞いていただき、発生させたシンクロtron光から一つの波長の光を取り出す方法は？といった高度なご質問もいただきました。感染対策のため、学習の場が非常に限られる中でのご来所でしたが、無事このような場を提供できたことに私たちも安堵いたしました。またのご来所をお待ちしております。



※コロナ禍の中、やむなくキャンセルとなりお越しいただけなかった見学者様も多く、大変残念ではありますが、またの機会にご来所いただけるようお待ちしております。

安い！  
便利！  
安心！

# 佐賀県内の企業のみなさまへ ～ 「県内企業優遇支援」のご案内 ～

当センターは、「地域産業の高度化」「新産業の創出」「科学技術の振興」等に寄与することを目的に設立された佐賀県立の施設です。

県立施設であることから、県内の企業様への優遇支援を行っています。

まずは、お気軽にお問い合わせください。

## 産業利用コーディネーター事業

無料

⇒**産業利用コーディネーター**が県内の企業様を訪問・ヒアリングし、課題解決に向けたアドバイスを行います。



- シンクロトロン光研究センター
- 産業イノベーションセンター
- 試験研究機関



## 包括利用制度

⇒**専門スタッフ**が**試料測定**や**利用支援**を行います。初心者でも安心！

| 利用区分        | 利用条件          | 利用単位       | 利用料金           | 情報公開      |
|-------------|---------------|------------|----------------|-----------|
| 一般利用        | なし            | 1日         | 209,500円       | 不要        |
|             | 県内企業（半額）      | 〃          | 104,700円       |           |
| トライアル利用     | 初回1日のみ        | 〃          | 無料             | 要         |
| <b>包括利用</b> | <b>県内企業のみ</b> | <b>2時間</b> | <b>23,100円</b> | <b>不要</b> |

<問い合わせ先>

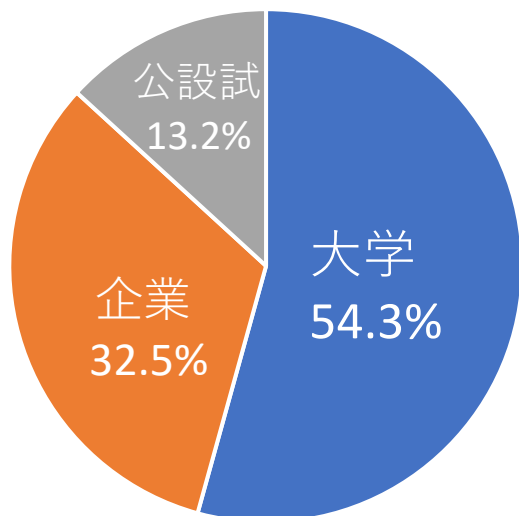
(公財) 佐賀県産業支援機構 九州シンクロトロン光研究センター

TEL : 0942-83-5017 FAX : 0942-83-5196

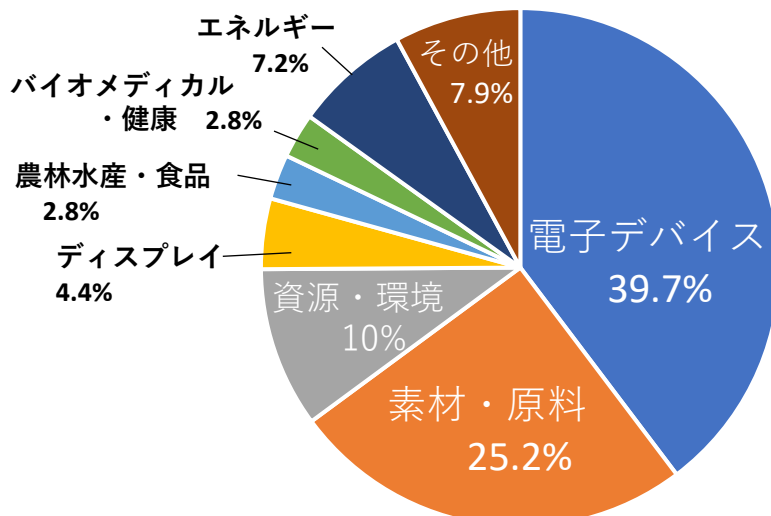
# 2020年度の利用実績

## 当センターの県有ビームラインをご利用いただき、ありがとうございました

(利用件数：151件      利用時間数：3130.5時間)



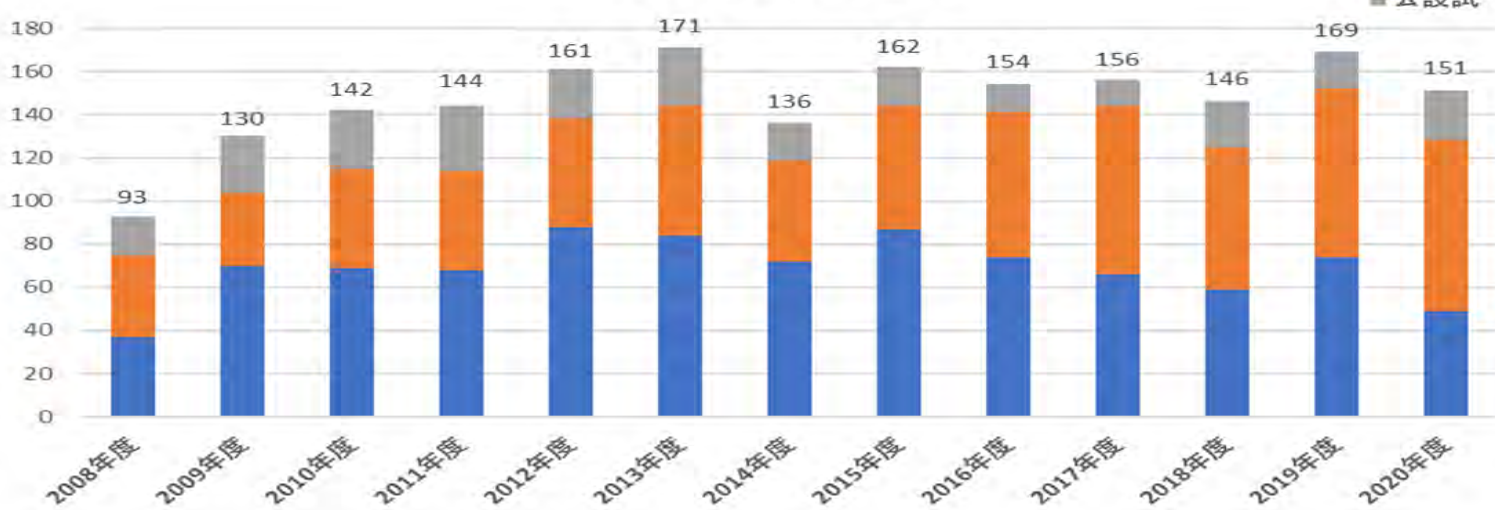
機関別の利用時間の割合



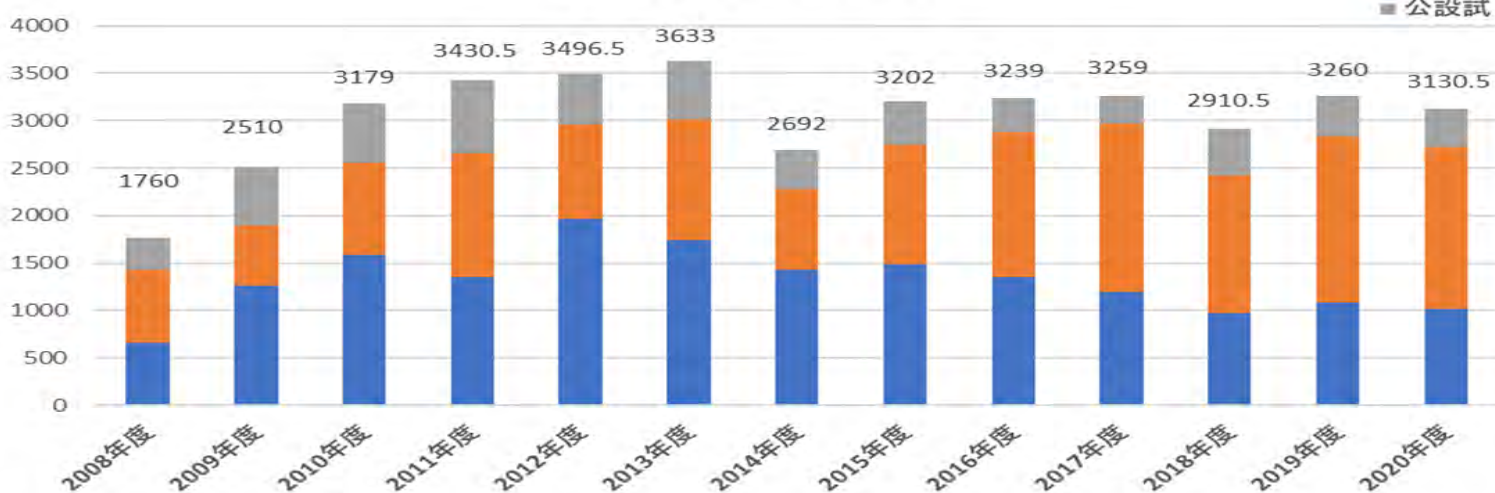
分野別の利用時間の割合

※小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはなりません。

### 利用件数の推移



### 利用時間の推移



今後ご利用をよろしくお願いいたします。

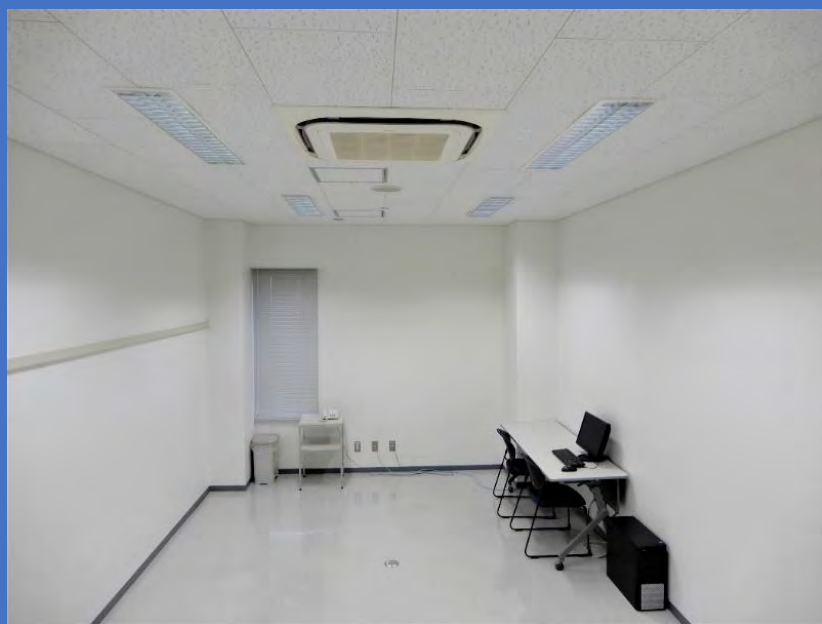
佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター(2F)に  
研究開発の拠点を設置しませんか

Rental laboratory

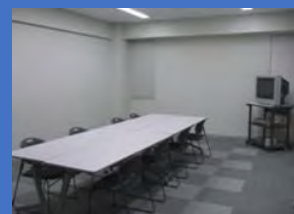
# 貸研究室

利用料金 月29,700円

- 産学官連携による研究開発が可能になります！
- スタートアップ企業の研究開発に最適です！
- 実験前後の作業や処理に便利です！



セミナー室や会議室もご利用いただけます。



|            | 9:00~12:00 | 13:00~17:00 | 9:00~17:00 |
|------------|------------|-------------|------------|
| 会議室1       | 1,400円     | 1,900円      | 3,300円     |
| 会議室2       | 1,200円     | 1,600円      | 2,800円     |
| セミナー室(A+B) | 6,700円     | 9,000円      | 15,700円    |
| セミナー室(A)   | 4,100円     | 5,600円      | 9,700円     |
| セミナー室(B)   | 2,600円     | 3,400円      | 6,000円     |

※半日単位又は1日単位での利用となります。



公益財団法人佐賀県地域産業支援センター  
九州シンクロトロン光研究センター  
〒841-0005 佐賀県鳥栖市弥生が丘8丁目7番地  
TEL: 0942-83-5017 FAX: 0942-83-5196

# 読者プレゼント

抽選で5名様に  
プレゼント!!

キーワードクイズにご回答ください。

## 〇〇売薬

江戸時代に佐賀県の鳥栖市から基山町で発達した売薬業をなんというのでしょうか？

景品応募締切：6月11日（金）

<http://www.saga-ls.jp/main/94.html>

### ダブル充電ハンディパワーライト



手動とソーラーで充電できる電池不要のライトです!!

手動とソーラーで充電できる電池不要の優れたもののライトです。ソーラー充電は8時間充電で約30分間点灯します。手動充電は1分間ハンドルを回すと約5分間点灯します。災害時やアウトドアで大活躍します。

#### 【注意事項】

- 読者アンケートは随時受け付けていますが、景品は応募期間があります。
- ご回答いただいた方の中から、厳正な抽選のうえ当選者を決定します。
- 当選発表は景品の発送をもってかえさせていただきます。
- 当選者の住所不明、転居先不明、長期不在などにより景品をお届けできない場合は、当選を無効とさせていただきます。
- 景品のお届け先は日本国内に限ります。
- 個人情報は、九州シンクロトロン光研究センターの[個人情報保護方針](#)に基づき適切に保護・管理します。



## 田代売薬

佐賀県鳥栖市。長崎自動車道と九州自動車道、JR鹿児島本線と長崎本線が交差するこの町は古くから交通の要衝として栄えました。かつて、鳥栖市と三養基郡基山町にわたる一帯は「田代」と呼ばれ旧対馬藩の飛領でした。

長崎街道沿いに位置する田代は交通の要衝であることに加え、宿場町でもあり、多くの人や物が往来しました。先に売薬を始めていた富山の売薬人が入っていたこともあり、越中富山の薬売りと共に、家庭用の配置売薬業「田代売薬」が栄えます。田代売薬は富山・近江日野・大和の売薬とともに、日本を代表する四大売薬の一つと位置付けられることとなります。

江戸時代中期（1751～1763）にはすでに売薬の行商が行われており、田代の代表的な売薬である朝鮮名法奇応丸の製法を朝鮮から学び、幕末期には薩摩を除く九州各地と、中国・四国の一部にまで得意先を広げていき、明治に入ると家内工業から工場制手工業へと転換していきました。

明治30年代になると、従来の漢薬から洋薬調剤による新しい薬が登場したり、丸薬製造の専門業者も現れるようになりました。また、明治37年頃には田代の製薬業者がロールによる延膏薬の製造法を開発し量産が可能となります。延膏薬は田代売薬の代表的な薬となり、「内服薬は越中さん、外用薬は田代売薬人」といわれるまでになりました。

明治末期から大正初期にかけての時期、田代町・鳥栖町には次々と製薬会社が設立されました。なお、大正7年頃から流行したスペイン風邪の流行時は、痛みを和らげる延膏薬の売り上げが一層伸びて田代売薬の発展に大いに寄与しました。

その後、第二次世界大戦後には製薬業者の新たな再編が行われ、昭和20年代後半から30年代前半にかけて戦後の家庭配置薬全盛期を迎え、その後の高度経済成長期に伴い急激に衰微していきましたが、配置売薬は製薬業へと発展し佐賀県の主力産業となり現在に至ります。



# 中富記念くすり博物館



イタリアの現代彫刻家チェッコ・ボナノッテ設計

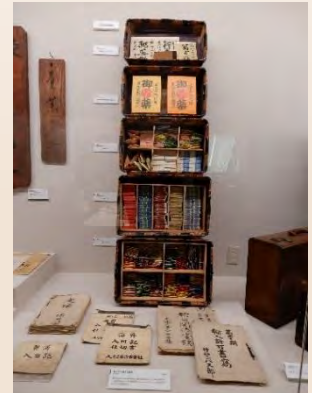
当センターから徒歩15分ほどの所にある「くすり博物館」をご紹介します。  
田代売薬にルーツを持つ久光製薬(株)の創業145周年の記念事業として設立されました。  
4月に館内がリニューアルされ、世界のくすりの歴史と文化を体感しながら学ぶことができます。  
田代売薬当時の貴重な製薬・行商資料や、19世紀末の英国ロンドンに実在した薬局の移設展示は必見です。敷地内には薬木薬草園も併設されており、散策しながら四季折々の植物を楽しむことができます。ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。



ハーブや生薬の香りが体験できるコーナー



約70種類の生薬の展示



売薬人が持ち歩いていた薬箱



英国「アルバン・アトキン薬局」  
プロジェクションマッピング



薬木薬草園のカモミール

住所 841-0004 佐賀県鳥栖市神辺町288番地1  
営業時間 10:00~17:00(最終入館16:30)  
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は火曜に振替)、年末年始  
電話 0942-84-3334  
入館料 大人300円、高校生・大学生200円、小中学生100円

担当：古賀・石郷岡

